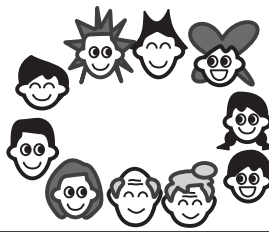


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員

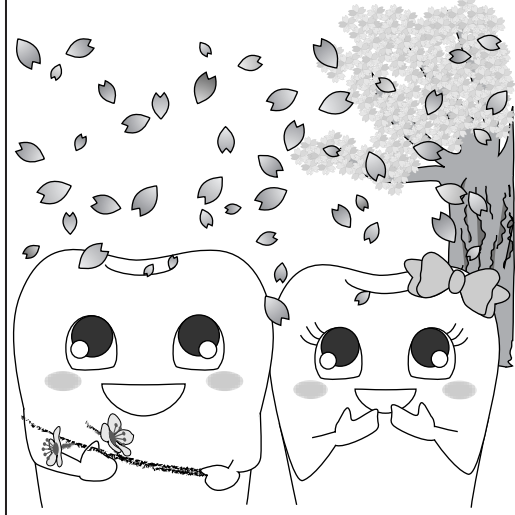


平成28年4月号
 発行人:津谷歯科医院
 院長:津谷良
 住所:岡山市中区海吉1807-14
 紙面に関するお問い合わせは下記まで
 電話:0120-779-418
 配信代行:訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

内閣府等が高齢者を対象に行った調査では、「介護が必要となった時は自宅で療養したい」という回答が6割を超えていることを踏まえて、「できる限り住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を実現できる社会」を目指しています。今回の診療報酬改定も在宅医療を推進する内容となっています。具体的には、自宅で療養しながら、必要な時に介護・医療を受けられる体制作りの強化です。さて今月は、『在宅終末期の口腔ケア』についてお届けしたいと思います。施設や病院で療養している終末期の方に対しては、ほぼ全員に口腔ケアが実施されています。在宅でも適切な口腔ケアによって、在宅療養の意味をさらに高めることが可能となります。



■ 適切な口腔ケアを続けることが大切

在宅で療養している終末期の方の場合、痰の増加等をきっかけに口腔が意識されることも多く、主に訪問看護を受ける際に口腔ケアが行われていると思えます。在宅で療養する30名の終末期の方に対する調査では、下記のような口腔状態でした。

口腔乾燥	100%
食物残渣	73%
痰の付着	70%
易出血	50%
真菌繁殖	33%

終末期の方の身体は不安定な状態にあることから、歯科の専門的知識がない家族にとっては、口腔ケアまで手が回らないのが実情です。しかし終末期でも変化を期待できる数少ない器官の1つが口腔です。口腔ケアを適切に続けることで、在宅療養の意味をさらに高めることが可能になります。それには歯科専門職が介護者の負担軽減に配慮しながら、患者さんの状態に合った口腔ケアの方法をアドバイスすることが重要になります。

■ 歯科が終末期に介在する意義

口腔ケアの目的は、口腔内の細菌を減らして肺炎を予防することで予後を延ばすことや、口腔機能を改善して食べたり話せるようにすることです。しかし終末期の口腔ケアは、それだけではなく、その人らしい最後を迎えられるように支援することが重要です。

口腔ケアで病状の進行を止めることはできませんが、適切な口腔ケアを継続できれば、健康な生活を送っていた頃のように快適な口腔状態(爽快感)が最後まで保てます。口腔乾燥に上手く対処すれば家族との会話も可能になることがあります。また味や匂いの記憶は、それを食べた時の状況とともに記憶されると言われています。住み慣れた家で、思い出の手料理を口にして、家族との思い出がよみがえれば、在宅で療養する意味がさらに高まるのではないのでしょうか。

歯科の参加に対して半信半疑なご家族も、口腔ケアを実践するうちに、その成果を実感していただけるものと思います。ぜひお気軽にご相談下さい。

◆ 思い出の手料理と家族との会話。口腔ケアでその人らしい最後を支援できます ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」と話をしていただけなのに……。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間	9:00~12:30/14:00~18:30 (土曜日は16:30まで)
診療科目	歯科 小児歯科
休診日	木曜・日曜・祝祭日
院長	津谷 良
	岡山市中区海吉1807-14